

# 日本体操学会会報 Vol. 9/2012. 12

## ごあいさつ

「様々な体操 In Asahikawa」

日本体操学会会長 古川善夫

生活に生きる体操を目指して、「ひと、もの、おとの工夫」をテーマに「動いて学ぶ体操学会」が北海道教育大学旭川校で開催されました。

秋たけなわの9月29日、30日の2日間、たくさん動いて、ジャガイモや鮭など自然の恵みをたくさん食べ、笑顔あふれる皆さんと微笑みながら交流できたと思います。



「ひとが集まれば」「ものを活かせば」「おとに乗れば」何かが生まれます。

- 1 日目は、学校と地域がつながる体操を学んで動くことができ、
  - 2 日目は、様々な体操の実践発表で様々な人とつながることができた
- 2 日間となりました。

大会組織委員長の小出高義氏、金子嘉徳理事長をはじめとする常任理事の各位、事務局の鈴木由起子氏らのご尽力により、2 回目の学会大会が北海道で開催することができました。学会員を代表して心からお礼申し上げます。

## I. 日本体操学会第 12 回学会大会

### 1. 平成 24 年度日本体操学会理事会／総会報告

平成 24 年度日本体操学会理事会・総会が、9 月 30 日（日）に北海道教育大学旭川校キャンパスにおいて 35 名の会員が出席の中で開催された。平成 23 年度事業報告・決算報告並びに平成 24 年度事業計画・予算案が承認された。第 8 回学術研究集会は、平成 25 年 3 月 2 日（土）～8 日（金）でハワイにて開催する。ハワイ在住で本学会員の早野曜子氏のご協力を得て、現地体操教室の視察他をする予定である。第 13 回大会は平成 25 年 9 月 14 日・15 日に「動きを遊ぶ」（案）をテーマに筑波大学にて開催する予定である（□）。会員が主催する体操研修会に補助金を交付することが決定した。また、選挙により平成 25 年度からの第 6 期役員が承認された。（鈴木由起子）

- 「Ⅲ. 第 13 回学会大会について」をご覧ください。

## 2. 日本体操学会第12回大会報告

### 1) ビデオシンポジウムⅠ

学校教育での「体づくり運動」について、当麻小学校の中山先生と附属旭川中学校の佐藤先生に、地元を代表し報告頂いた。小学校では、フープや縄を使って自己課題に向かって活動し、その評価を全員で共有する工夫がなされていた。中学校では、自己課題に応じた運動計画を立案し、その運動をペアで実施していく中で、互いの活動を評価し合う実践が行われていた。



筑波大学の長谷川先生からは、これまで実践されてきた地域での体操や、すでにある体操のアレンジ版を紹介して頂いた。さらに参加者が大きな二重円を作り、パートナーを交代しながら先生の指示により動きを体験した。ラジオ体操の音楽に合わせて行い、「北海道」と締めくくった時には、会場が参加者の笑顔と拍手で溢れていた。(小出 高義)

### 2) 基調講演

文部科学省で保健体育科調査官を務められている白旗和也氏を講師に迎え、国がこれまで行ってきた体力向上に関わる政策や現在の課題について紹介が行われた。特に、子どもの体力については、筋力や持久力といった体力要素からの断片的な見方をするだけでなく、意欲や気力といった精神面の充実も必要であり、総合的に調和のとれた体力を育成することが重要であることを伝えられた。また、指導する際には、体を動かすことの心地よさや楽しさを児童に経験させることが大切なポイントであると述べられ、各指導者が今後どのように体操を指導していくべきかについて深く考える機会となった。(本谷 聡)



### 3) ビデオシンポジウムⅡ ～地域の体操アラカルト～

司会・進行 大塚 隆 (東海大学)

シンポジスト 金子 嘉徳 (女子栄養大学)

吉中 康子 (京都学園大学)

大島 林子 (名古屋芸術大学)



地域で行われている各種の体操は学校体育へどのように貢献できるのか、という提案のもとにシンポジウムが企画された。

金子氏からは、体操の目的や種類別に分類されたホームページが紹介された。ねらいに応じた体操を実際に見ることで、具体的な動きを理解し、さらに運動選択の幅が広がる可能性が示された。吉中氏からは、中高年の体操指導の経験から、継続するためのサポート体制の重要性が示唆された。会場の参加者とともに動く時間があり、運動の構成やわかりやすい指導の言葉を体験することができた。大島氏からは、多様な遊びを中心とした幼児期の運動の大切さが示され、子どもたちに関わる様々な場・活動への積極的な介入と連携が提案された。



地域で行われている体操を実際に見たり動いたりする場や研修等の提供が、地域と学校体育との連携を深めること示唆されるシンポジウムであった。

(大塚 隆)

#### 4) 交流会

学会初日の夜、交流会が開催された。ビデオシンポジウム終了後、同じ会場の第1体育館で開催され、移動もなくスムーズに開会された。

吉中副会長、瀬戸口常任理事のダブル司会により、北海道の味覚や特別な札幌ビールに舌鼓をしながら、歌の披露もあり、参加者一同、終始楽しい交流の時間を過ごすことができた。古川会長、小出大会組織委員会委員長はじめ、スタッフの方たちに感謝するとともに、来年の再会を約束して解散となった。次回もまた楽しい会が持てるといいですね。(大島 林子)



#### 5) 研究発表 I : 口頭発表

「体操の振りの動作分析」、「『Bo も Be も どーも!』を教材として用いた実践研究」、「小学生における巧みな動きを高める運動」、「体づくり運動」、「高齢者の健康づくりの指導・実践報告」など、5人が口頭発表した。最新の機械を導入した動きの解析、授業実践の効果と評価、体づくりや健康づくりの実践研究な



ど、動画を取り入れ、発表の質も向上し、アカデミックな中にも、ヒューマニズムあふれる有意義な時間であった。(吉中 康子)

## 6) 研究発表Ⅱ：ポスター発表

12名の発表者によって、初めに研究概要が3分程度で説明された。その後、各ポスター前で、研究内容を体験しながら論議が深められた。新たに開発された手具や用具の活用法として、音を出すバランスボードやペットボトル・キャップの手具、伸縮ロープ、ロディを用いたヨガなどが発表者によって紹介



された。新たな体操プログラムの提案は、体操領域の内容を豊かに広げる点で多くの参加者の興味を引いていた。この他、Gボールの種類による扁平率の検討や前転のバイオメカニクスの考察など、客観的なデータ分析による基礎的な研究も発表された。ポスター前のスペースで、紹介された運動内容を動きながら理解し、情報を交流している姿が印象的であった。(長谷川聖修)

## 7) 公開プロジェクト報告

昨年度採択された2題のプロジェクト研究の成果が報告された。長谷川千里氏による「体操と料理献立の組み合わせによる新しい形の演技発表会について」は、食事と運動を組み合わせたコンテスト形式の発表会を企画することで、新たな体操人口の増加をねらったものであった。コンテストの開催方法と開催後の取り組みについて、更なる検討が加えられる予定である。

長谷川聖修氏による「小・中学校における体づくり運動の教材開発と動画配信」については、教材開発の趣旨や動画の閲覧、利用方法などについて説明があり、その後、開発された教材であるボールを使ったペア体操の実技実践



による紹介が行われた。この成果は大塚隆氏による本年度の研究プロジェクト「小・中学校における体づくり運動の実践と評価に基づく改善」に引き継がれる。(後藤 洋子)

## 8) 公開ワークショップ

公開ワークショップは、第12回大会組織委員会が第7回学術研修会「小中学校における体づくり運動の教材開発」（平成24年3月3日（土）、北海道教育大学旭川校にて開催）より選択した大塚隆氏（東海大学）、後藤洋子氏（三重大学）、本谷聡氏（筑波大学）による実技講習会が行われた。最初は後藤洋子氏によるエアロビクスからペアによる



移動しながらのリズム運動、次に本谷氏による市販ゴムチューブを利用したペアワーク、最後は大塚隆氏による長縄とボール等の運動用具を組み合わせたコーディネーション運動が行われた。各講習会共通して、それぞれの特徴・特性を生かし、工



夫された体づくり運動の展開例であった。また、講習会内容は小中学校の生徒に応じた内容や利用しやすい運動用具であったことから、参加された現場の指導者にとって展開可能な講習会であったのではないかと感じた。（金子 嘉徳）

## 9) 閉会

閉会に先立ち、全体で集合写真を撮った。この第12回大会がどのような学会であったかは、その写真に写っている方々の表情からご判断頂けるのではないのでしょうか。閉会の挨拶で古川会長からは「その後の実践及び研究を持ち寄って、また来年の筑波でお会いしましょう。」と呼びかけがあった。私が運営に携わり感じたのは、北海道のこの地に、全国からこれだけの人を集めることができる「体操」の力は偉大であるということだ。加えて、皆様のご協力により無事終了することができ、充実感で一杯である。ただ、台風で帰りの飛行機が運休となったことを除けばということで、ご容赦頂きたいと思う。本当にありがとうございました。

（小出 義高）



## Ⅱ. 第 8 回学術研究集会について

第 8 回学術研究集会は、平成 25 年 3 月 2 日（土）～8 日（金）の日程で、ハワイ（ハワイ大学ヒロ校舎）にて開催予定です。

ハワイ在住で本学会員の早野曜子氏に、「ハワイ島ヒロにおける健康づくり運動（Exercise Class for Adult）の現状視察と交流（仮）」をテーマにご講演いただきます。その他に、環太平洋文化交流促進支援事業「ホノルルフェスティバル」視察、現地健康増進施設視察等が企画されております。

研究学術集会への参加申込は、12 月末日となっております。参加ご希望の方は、下記までお申し込みください。

【申込先】 女子栄養大学実践運動方法学研究室内 金子嘉徳

TEL・FAX: 049-284-3472 E-Mail: kaneko@eiyo.ac.jp

## Ⅲ. 第 13 回学会大会について

第 13 回学会大会の会場が、筑波大学から三重大学に変更になりました。日程は、平成 25 年 9 月 14 日（土）・15 日（日）となります。なお、これまで学術研究集会は、次回学会大会を開催する会場で実施されていましたが、今回はハワイでの開催が決定しているため、三重大学では開催されません。